



悠久の時を経て
地表に湧き出でた水は、
北麓の田畑を潤し
日本海へと注ぐ。

水物語のエピローグは 「食」のお話。

大山のブナの森に蓄えられ、流水となって海へと注ぐ水。
あるいは長い年月をかけて地中で濾過され、鉄やミネラルを含んで
山麓の地表に湧き出す水…。森から里へ、里から海へ、
太古より水は自然の動植物を育み、村と町とを結び、
また私たちに恵みをもたらす大切な使者でした。



YouTube
「御来屋海岸
素潜りサザエ漁」
(5分5秒)

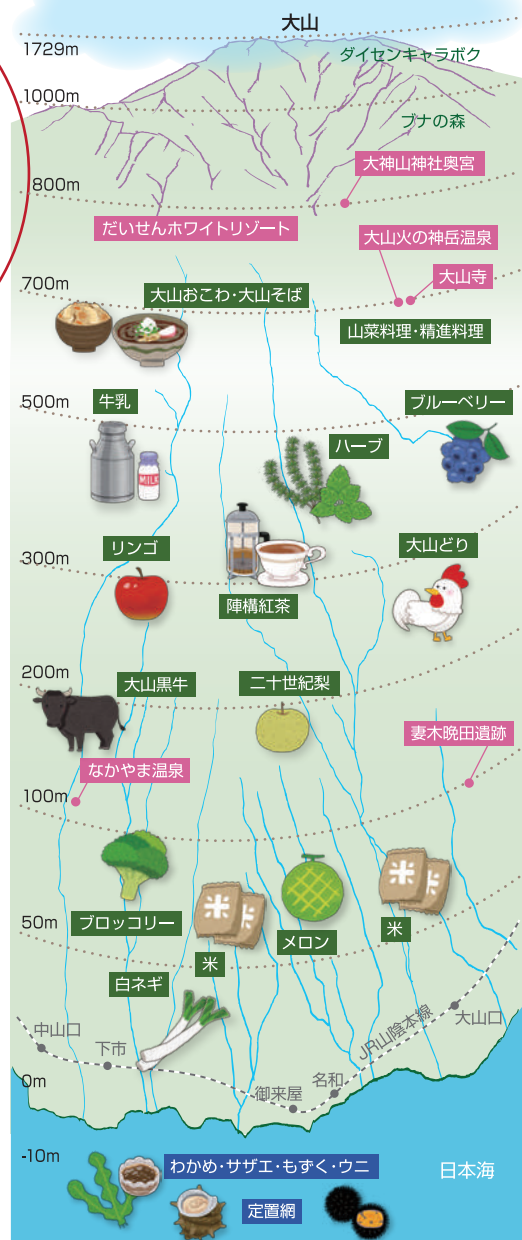
大山北麓の丘陵地から平野部にかけて広がる豊穡の大地。
川から水路へと流れてきた水は、さまざまな農産物を育て、
海底から湧き出した水は大量のプランクトンを育み、
活発な食物連鎖を促して豊かな海の幸をもたらしてくれます。
大山に始まる「水の連環」は、第一次産業と深く関わり、
「食」として帰結して、多様な恵みを私たちにもたらししてくれます。

獲っても獲っても
湧いてくる！

…と言うほどこ
では昔からサザエが
よく育ち、今でも20
人近い素潜り漁師
が、水深約7mの海底
に潜ってはサザエを
獲っています。



ブナの森がもたらす“恵み”の分布



今朝も大漁！
思わず顔もほころんで。

早朝、御来屋漁港の沖合に張られた定置網で四季を通じて、多種の旬魚が水揚げされます。獲った魚は早速、お魚センターに並びます。

